

FENWAL

# 2018 | 12月期 決算説明会資料

(2018年1月1日～2018年12月31日)

2019年2月27日

日本フェンオール株式会社

証券コード (6870)

## Contents

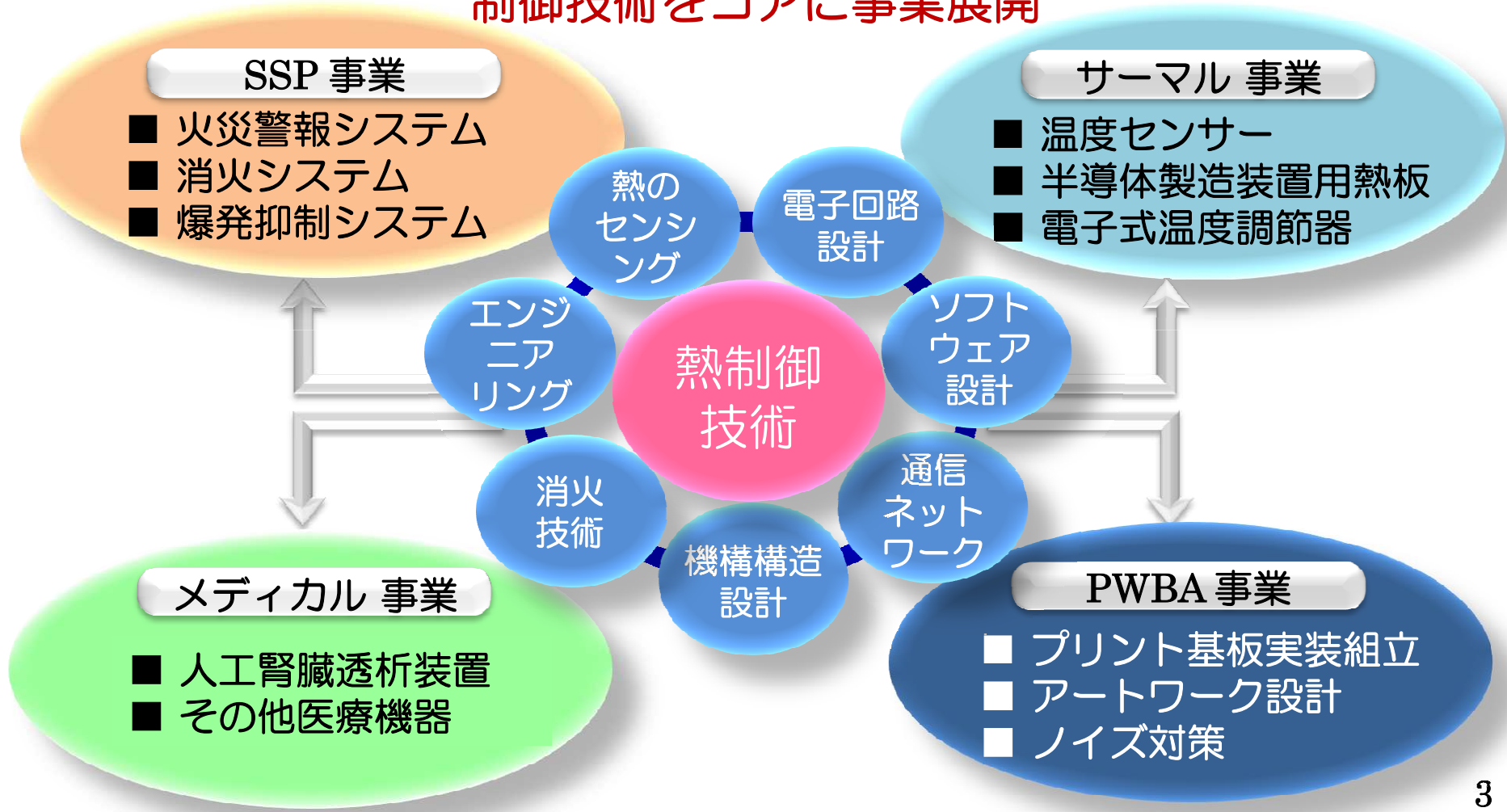
	頁
1. 事業概要 -----	2
2. 2018年 12月期 通期 決算概要 -----	5
セグメント別実績 -----	9
投資・財務概況・経営指標 -----	16
3. 2019年度 通期連結業績見通し -----	22
2019年度 配当について -----	25
4. 中期経営計画（ローリングプラン）-----	27
中期 経営目標・配当政策・投資計画 -----	39

# 1. 事業概要



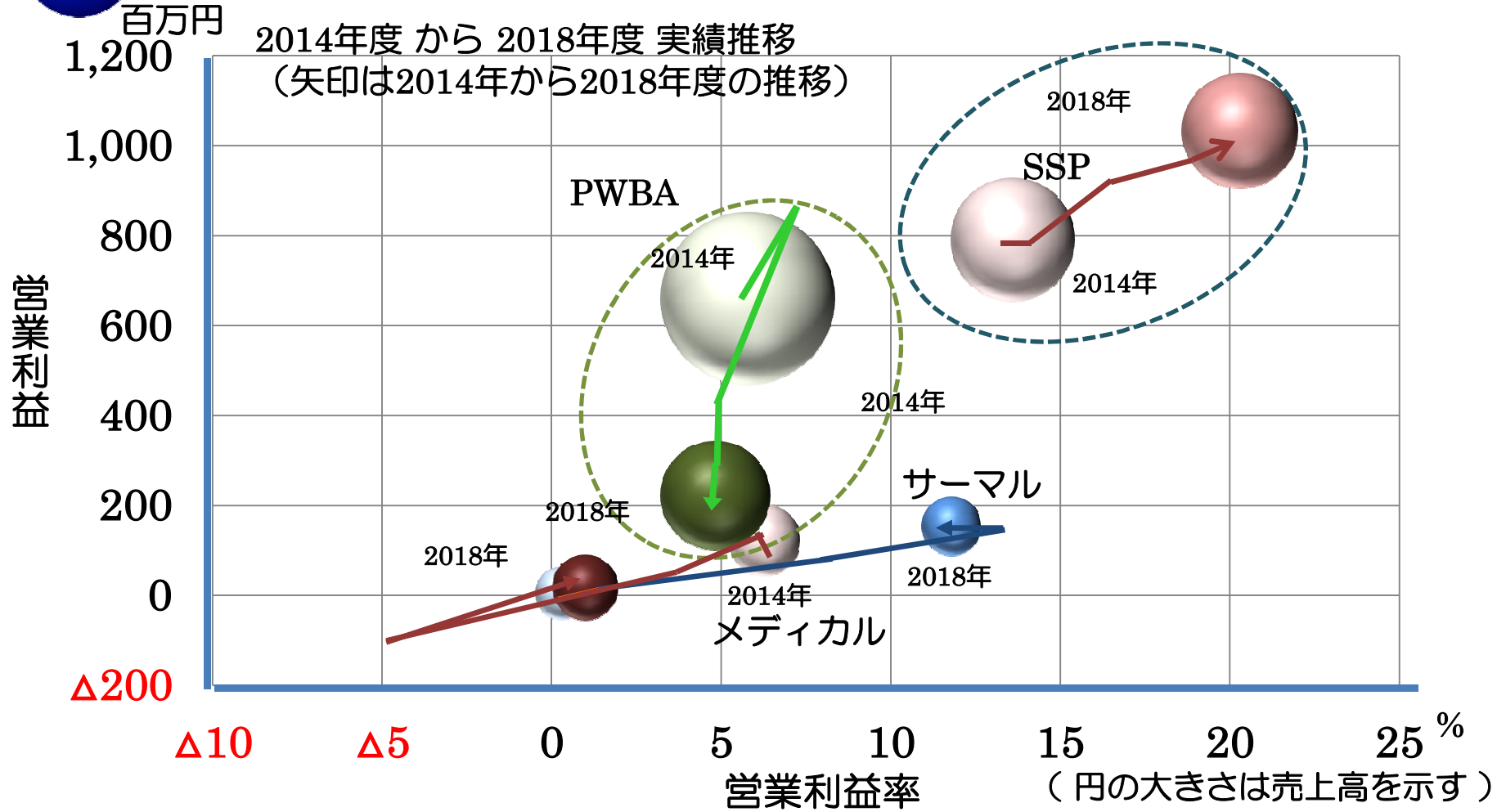
## 事業構成

### 制御技術をコアに事業展開





# 当社事業のポジショニング



## 2. 2018年12月期 通期 決算概要



## 2018年度 通期の業績サマリー

前期比 売上高△12.3% 営業利益+1.5% 減収増益

(単位：百万円)

業績項目	当期実績		当期予算		前年実績	
	実績	予算	予算比	実績	前期比	
■ 受注	11,629	13,905	△ 16.4%	14,853	△ 21.7%	
■ 売上	12,542	13,625	△ 7.9%	14,307	△ 12.3%	
■ 売上総利益	3,366	3,634	△ 7.4%	3,440	△ 2.2%	
■ 販管費	1,942	2,030	△ 4.3%	2,037	△ 4.6%	
■ 営業利益	1,424	1,604	△ 11.2%	1,403	1.5%	
■ 営業外損益	73	59	22.8%	72	0.5%	
■ 経常利益	1,497	1,663	△ 10.0%	1,476	1.4%	
■ 当期純利益	1,169	1,165	0.3%	1,128	3.6%	
■ 1株当り純利益(円)	198.52	188.71	5.2%	191.55	3.6%	
■ 平均レート(円)	110.57	100.00	10.6%	112.39	△ 1.6%	

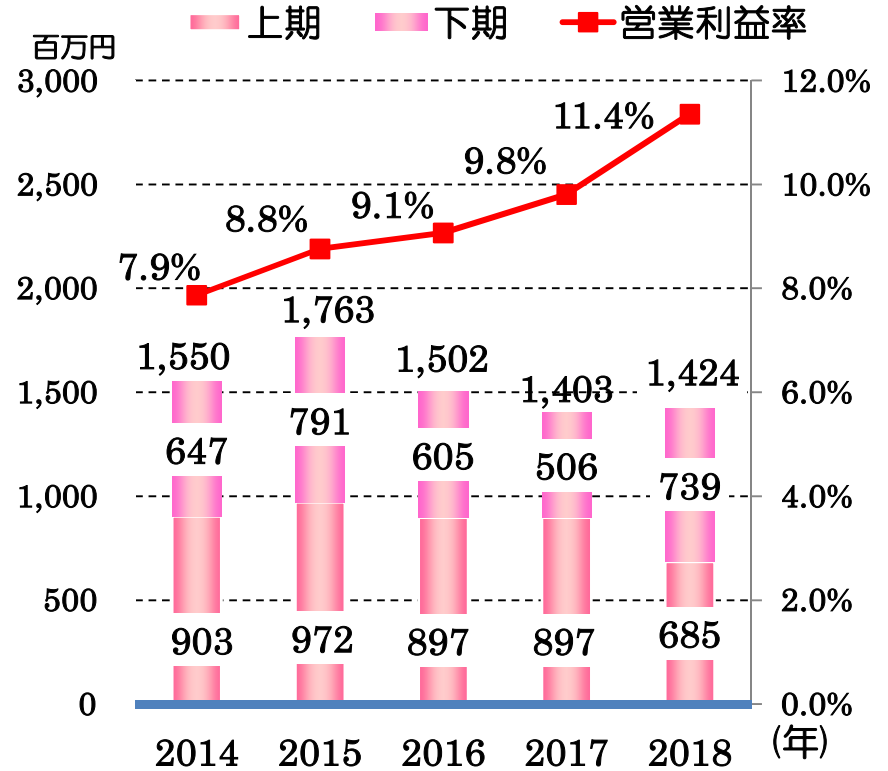
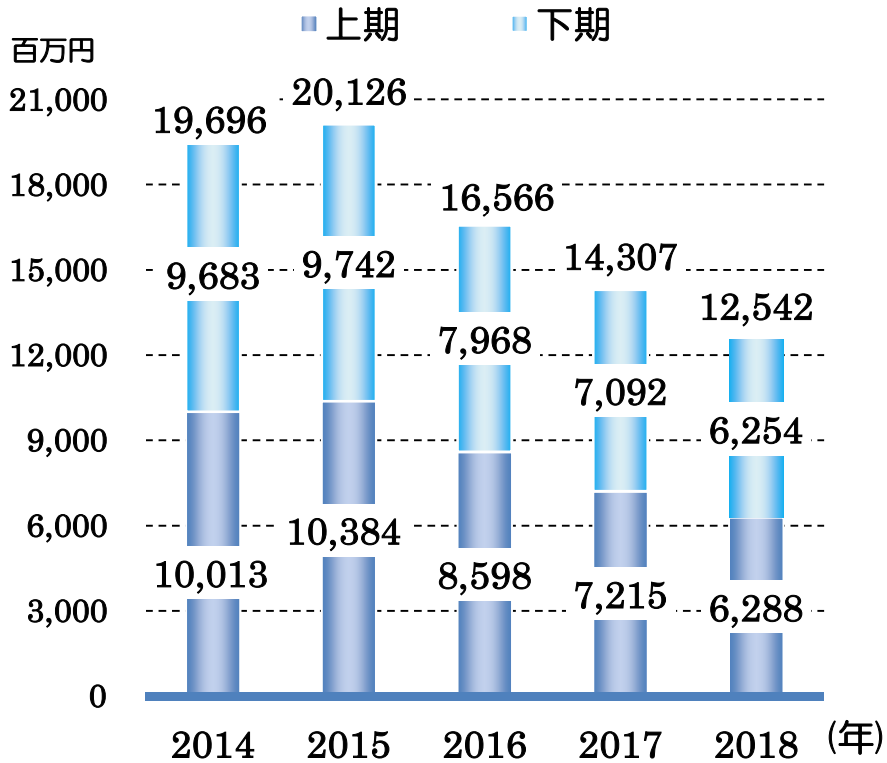


# 業績推移

売上高減少も高付加価値化により利益率は2014年度比+3.5%

### 売上高

### 営業利益

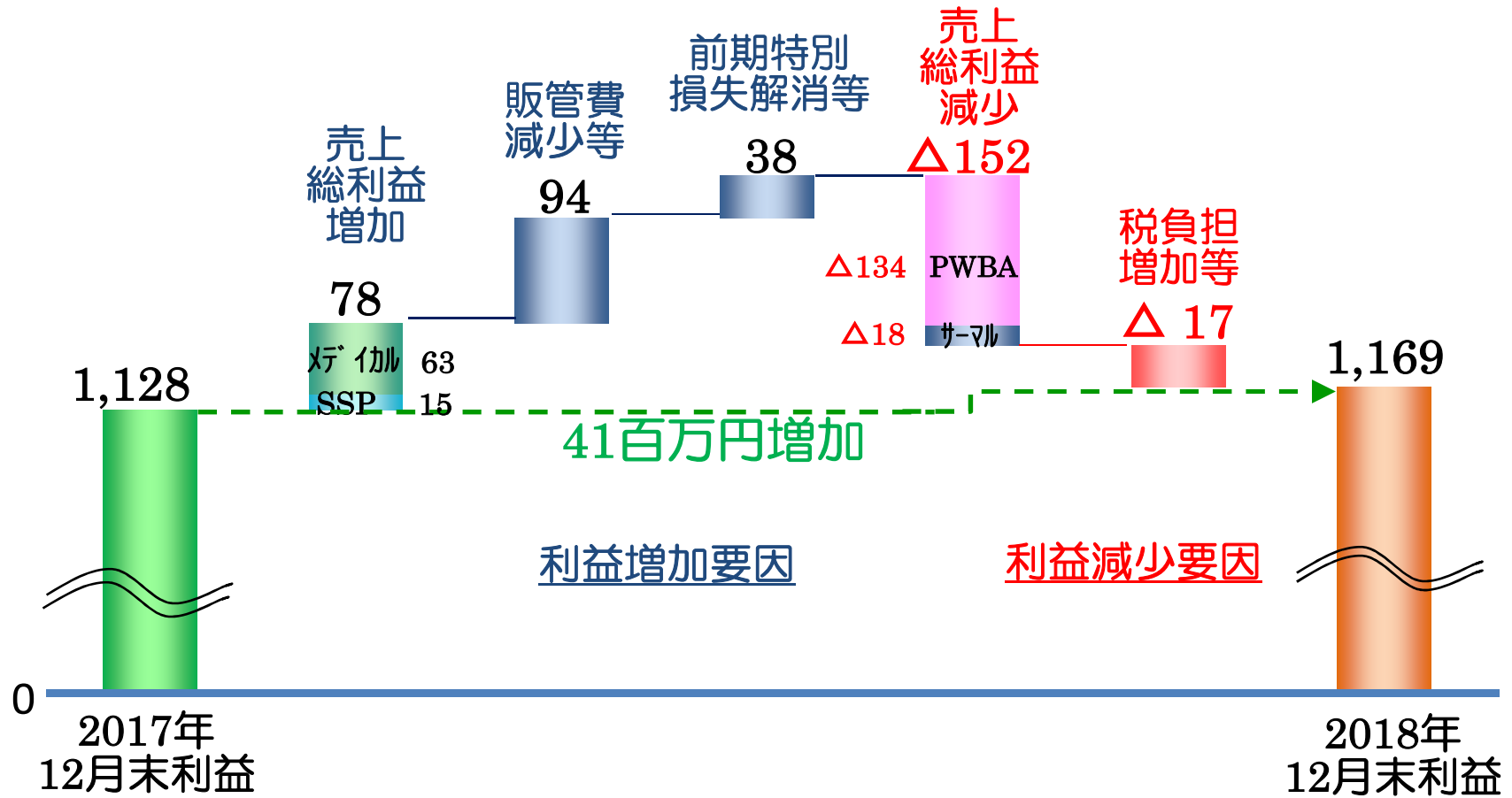






# 前期比 当期純利益増減要因

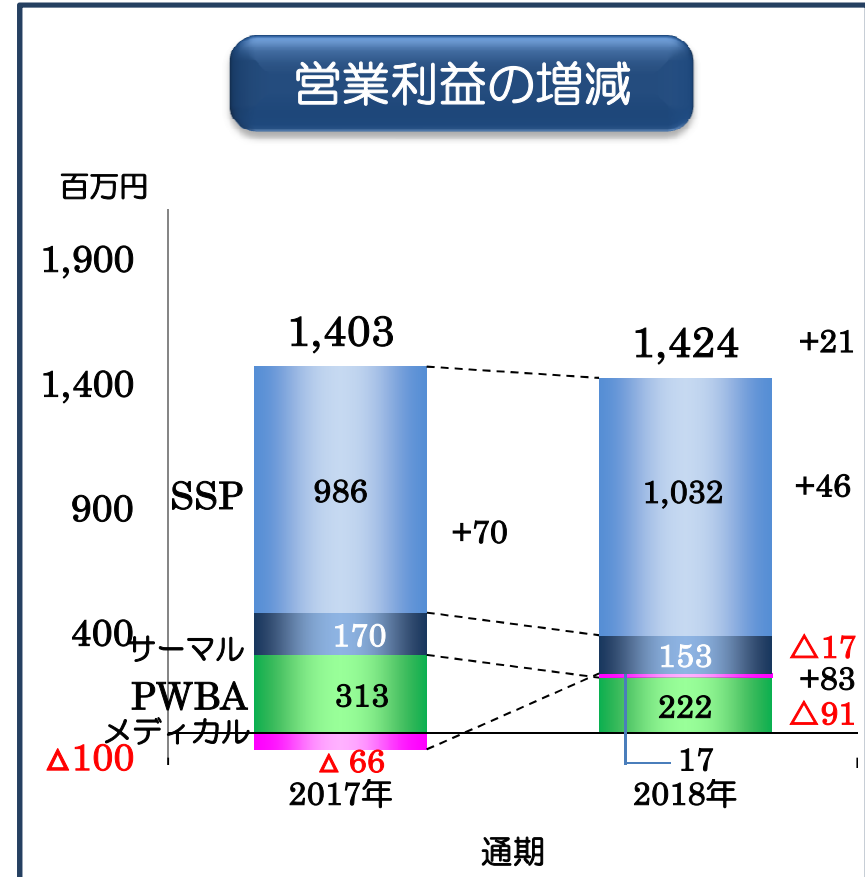
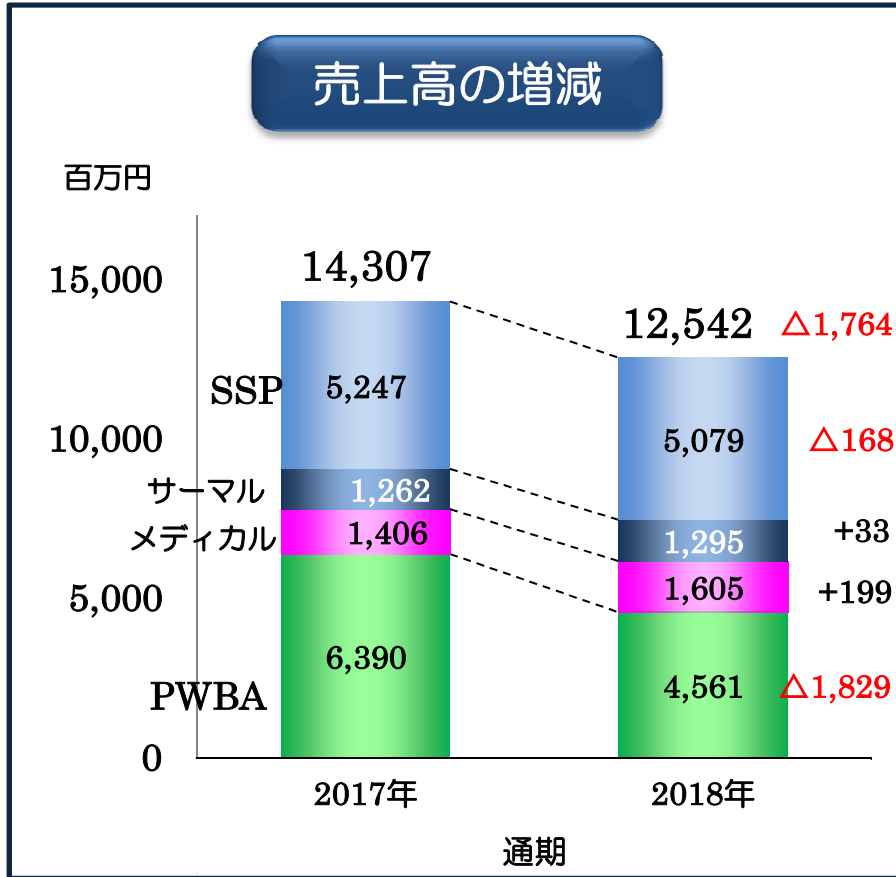
(単位：百万円)



## セグメント別実績



# セグメント別増減明細



※全社費用をセグメント別に配賦



# セグメント別売上高・営業利益 SSP



## 【減収・増益】

・売上高	前期比	△3.2%
・営業利益	前期比	4.8%

### 1. 前期比較

#### (1) 売上

##### ① 基幹産業向け防災設備案件

計画遅延や工事中断による2019年以降への持ち越案件が発生

##### ② 産業用検知器・防爆型感知器

防災意識の高まりから国内は堅調に推移

##### ③ 海外市場への拡販

市場調査の遅れ等により、営業展開に遅れが生じ  
予算比減少

#### (2) 営業利益

高利益率物件中心の受注獲得による売上総利益率  
上昇と販管費の削減により営業利益は増加

### 2. 計画対比

基幹産業向け案件の持越し、産業用検知器の海外  
展開の遅れ等により、売上、営業利益ともに計画を  
下廻った。(売上 △9億円、営業利益 △2億円)



# セグメント別売上高・営業利益 サーマル



## 【増収・減益】

・売上高	前期比	2.6%
・営業利益	前期比	△9.6%

### 1. 前期比較

#### (1) 売上

半導体市況において増産によるメモリー価格下落等のため、第3四半期以降、客先の需要調整により若干の出荷減少傾向で推移

#### ① 半導体製造装置用センサー

厳しい価格競争により昨年並みに推移

#### ② 半導体製造装置用熱板

韓国、中国等の東アジア地域における設備投資需要増により増加

#### (2) 営業利益

売上総利益率の減少により営業利益は減少

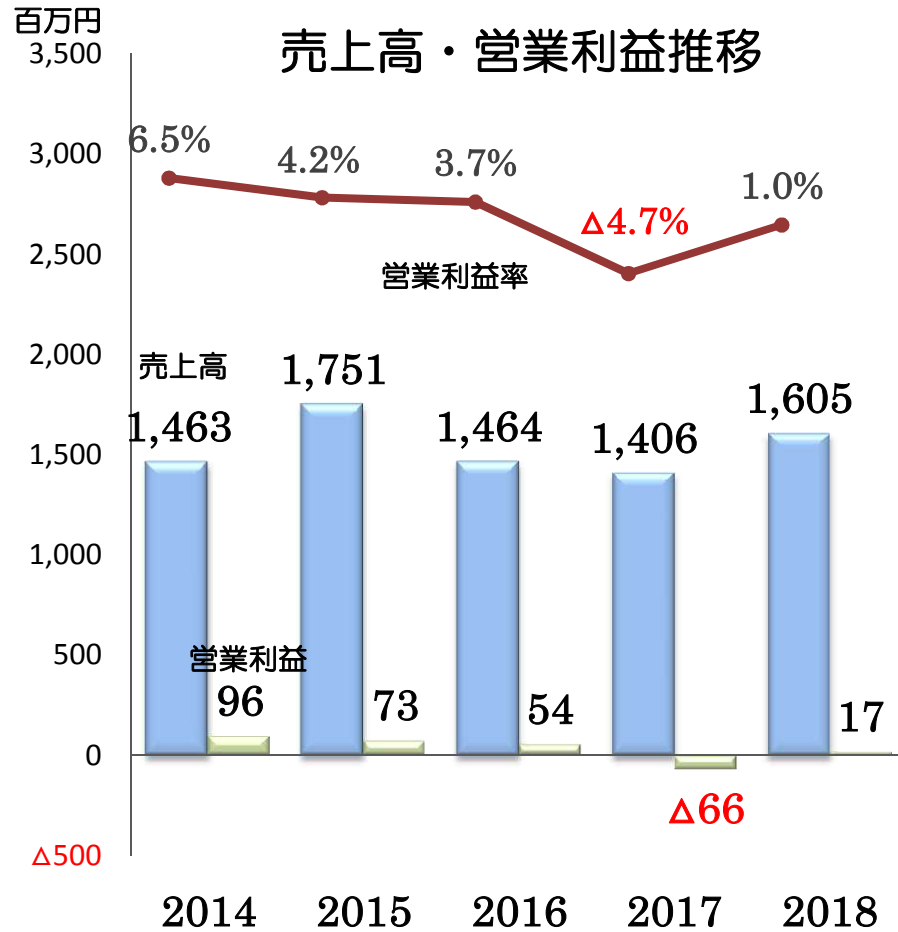
### 2. 計画対比

下期の半導体市況の需要減速等により、売上、営業利益ともに計画を下廻った。

(売上 △1.7億円、営業利益 △0.2億円)



# セグメント別売上高・営業利益 メディカル



## 【増収・増益】

- ・売上高 前期比 14.2%
- ・営業利益 前期比 黒字転換

### 1. 前期比較

#### (1) 売上

##### ① 海外向け人工腎臓透析装置

市場拡大による需要増により出荷大幅増加

##### ② 国内向け要素部品

国内向け透析装置用要素部品も第3四半期以降、客先の需要増加

##### ③ 新規医療機器開発

薬事承認の遅れなどにより新製品販売に遅れが生じた。

#### (2) 営業利益

前期発生した、新規医療機器の不採算案件解消と販管費の削減により営業利益は黒字転換

### 2. 計画対比

売上は計画を達成したものの、売上総利益率の低下により、営業利益は計画を下廻った。

(売上 +0.2億円、営業利益 △0.3億円)



# セグメント別売上高・営業利益 PWBA



## 【減収・減益】

・売上高	前期比 $\Delta$ 13.4%
・営業利益	前期比 $\Delta$ 29.4%

### 1. 前期比較

#### (1) 売上

##### ① 事務機器向け

事務機器業界の需要低迷が継続しており、今期も出荷は大幅に低迷、特に海外子会社の売上高が43.8%減少

##### ② 産業機器市場、医療機器市場向け

安定需要に支えられて売上維持

#### (2) 営業利益

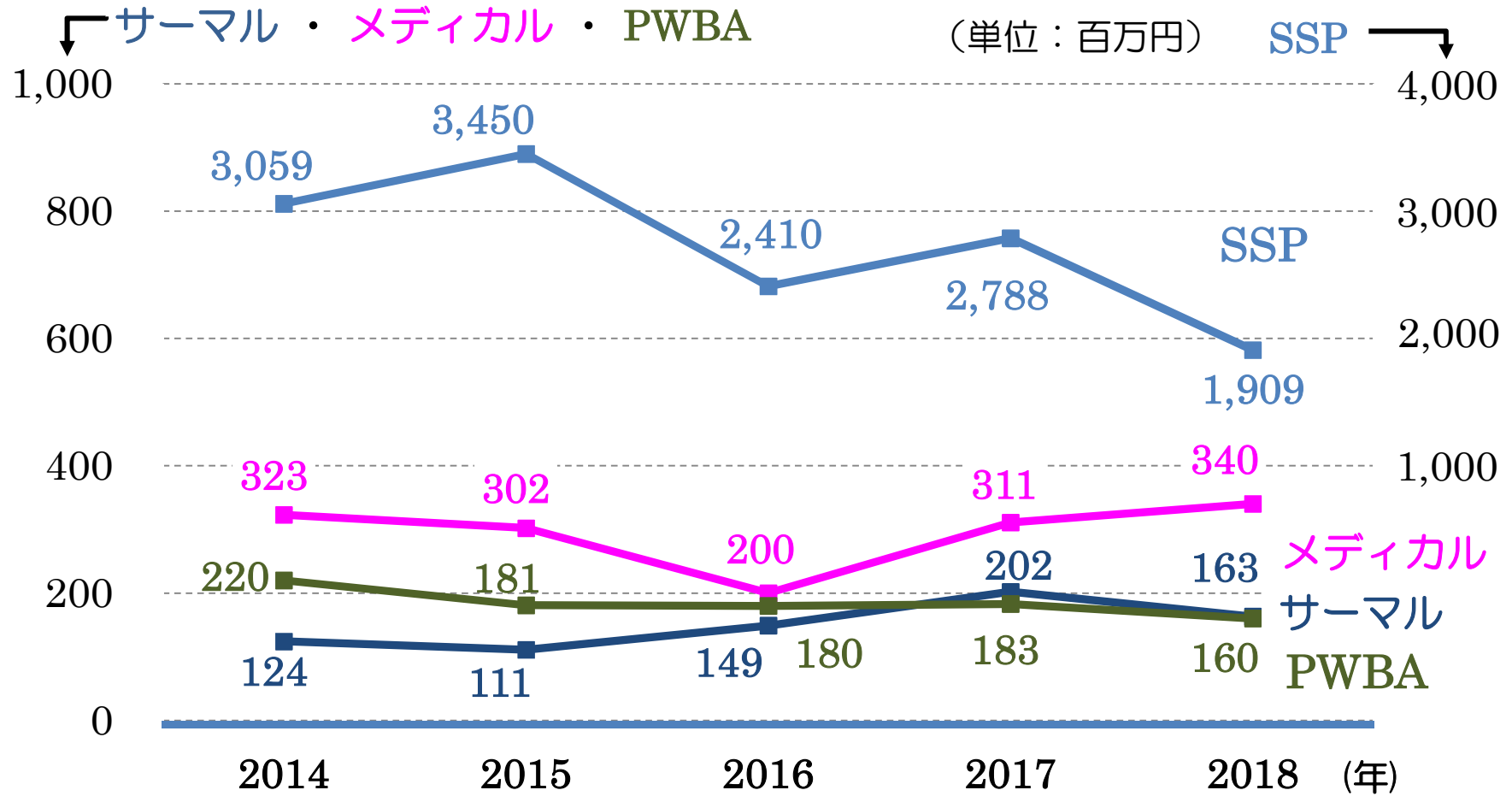
営業利益率は前期と同水準であるが、売上高減少により営業利益は減少

### 2. 計画対比

計画対比では、売上はほぼ計画通り、営業利益は海外の利益率改善と経費削減により増加  
(売上 計画どおり、営業利益 +1.2億円)



# 連結部門別受注残高推移





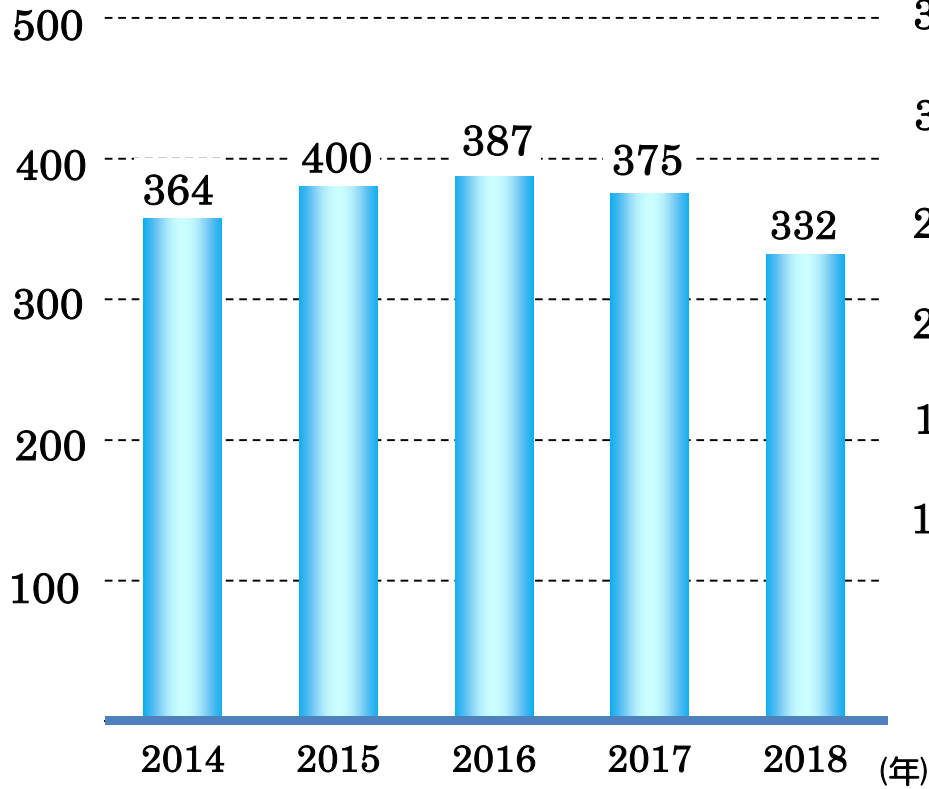
## 投資・財務概況・経営指標



# 投資概況

## 研究開発費

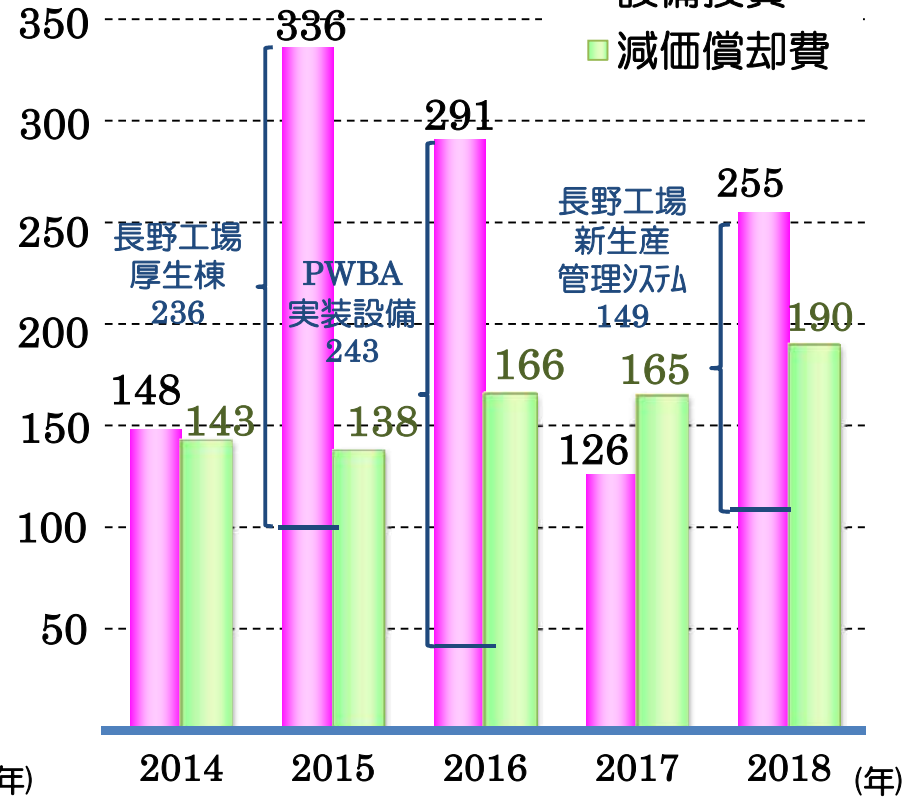
(単位：百万円)



## 設備投資・減価償却費

(単位：百万円)

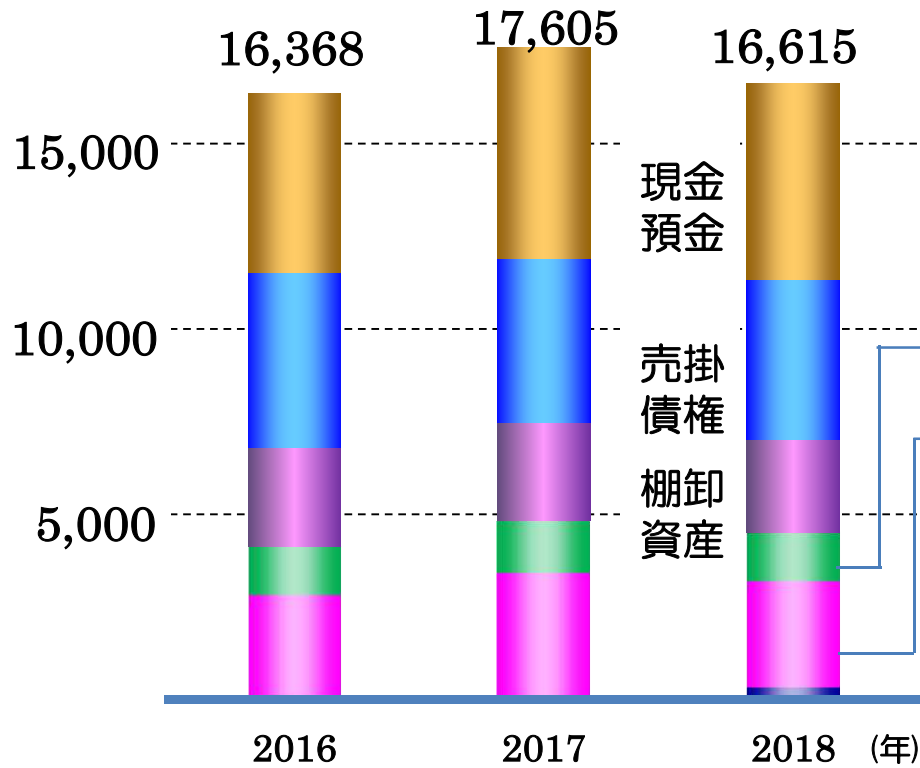
■ 設備投資  
■ 減価償却費





# 連結貸借対照表(資産の部)

## 資産推移



## 増減内容

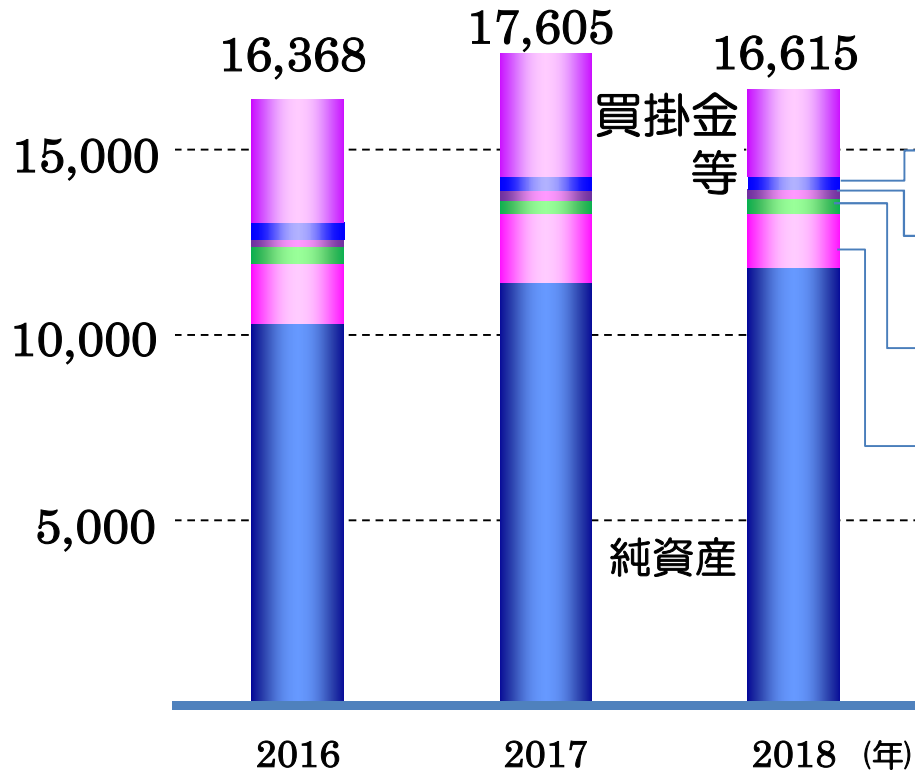
(単位：百万円)

項目	当期	前年度末	増減率
現金預金	5,287	5,714	△7.5%
売掛債権	4,313	4,423	△2.5%
棚卸資産	2,496	2,638	△5.4%
固定資産	1,329	1,401	△5.1%
投資等	2,828	3,352	△15.6%
その他	362	77	370.1%
合計	16,615	17,605	△5.6%



# 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

負債・純資産推移



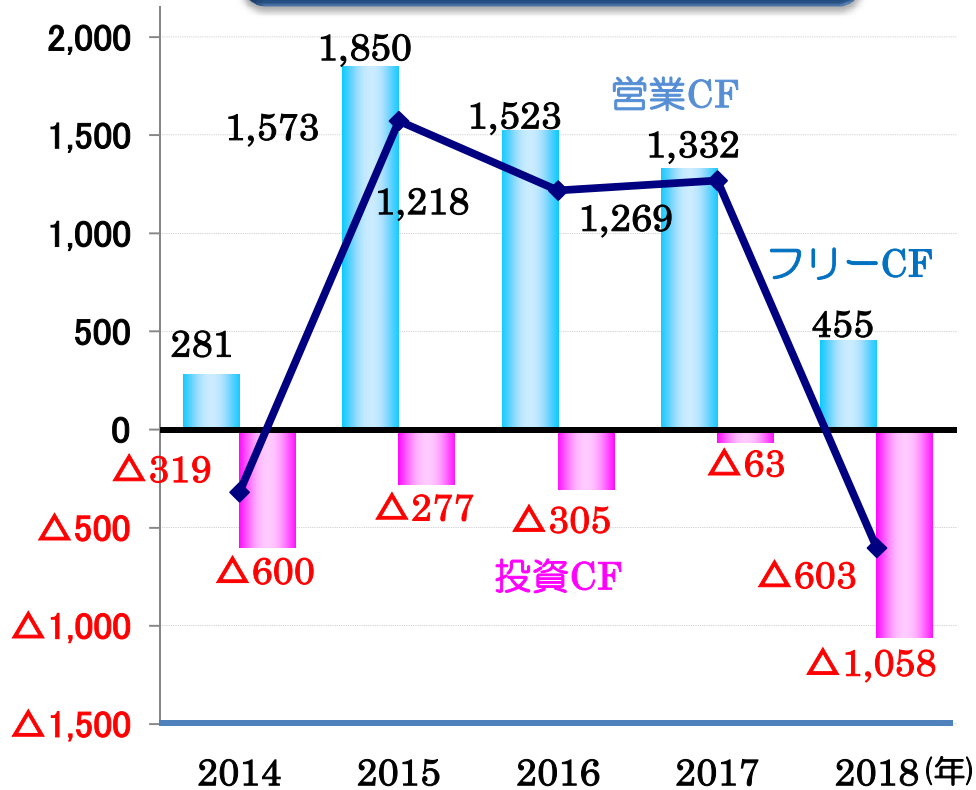
増減内容 (単位: 百万円)

項目	当期	前年度末	増減率
買掛金等	2,351	3,339	△29.6%
社債	336	368	△8.7%
未払法人税等	257	259	△0.8%
退職給付	389	357	9.0%
その他	1,462	1,856	△21.2%
純資産	11,820	11,426	3.4%
合計	16,615	17,605	△5.6%



# キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー推移



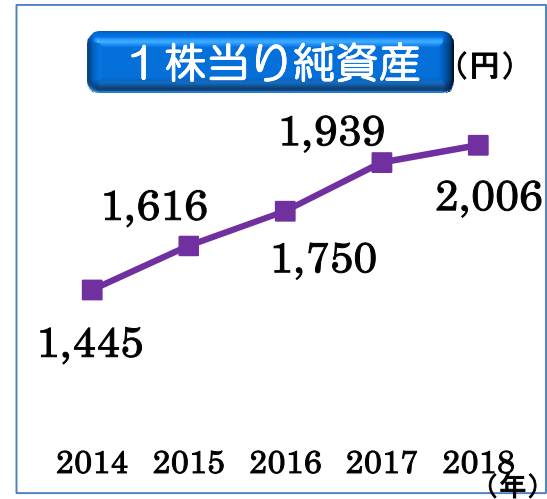
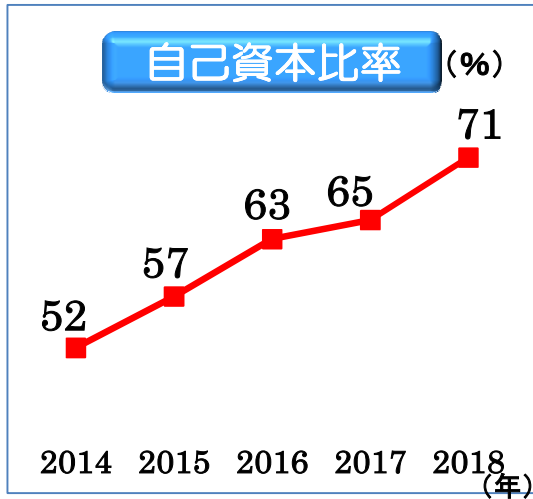
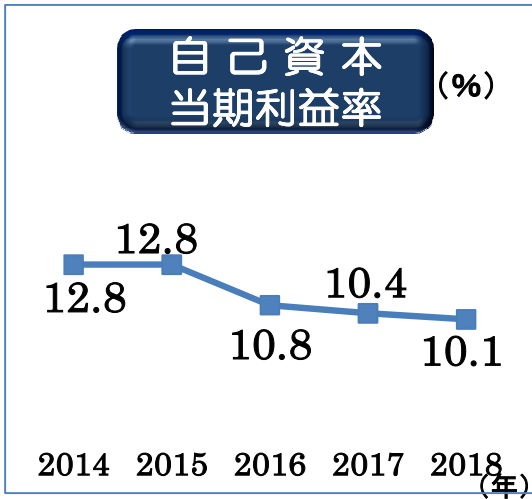
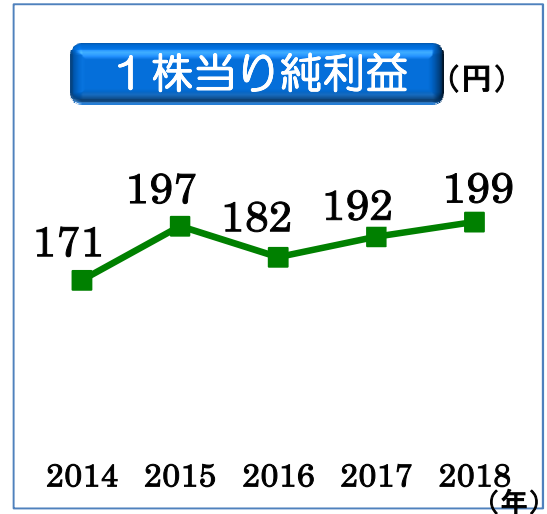
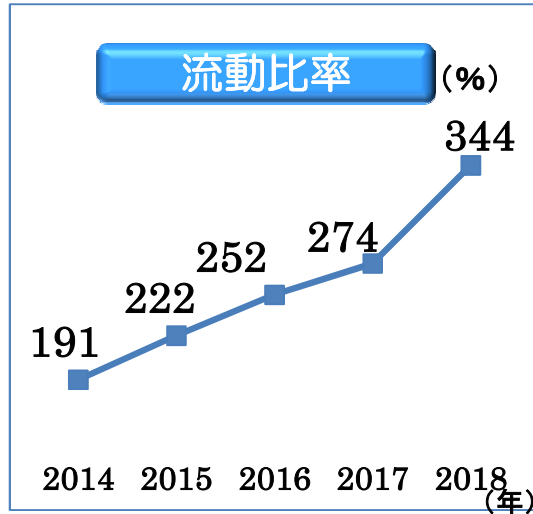
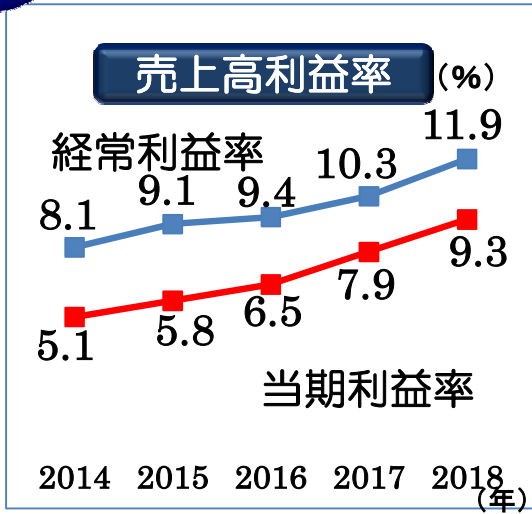
増減内容

(単位: 百万円)

項目	当期	前期	増減率
営業CF	455	1,332	△65.8%
投資CF	△1,058	△63	1,579%
財務CF	△450	△363	24.0%
換算差額	△40	△43	△7.0%
合計	△1,093	863	—
期首残高	5,714	4,851	17.8%
期末残高	4,620	5,714	△19.1%
フリーCF	△603	1,269	—



# 経営指標



### 3. 2019年度 通期連結業績見通し



## 2019年度連結計画サマリー（增收増益）

計画項目	前期比（単位：百万円）	
	2019 予想	2018 実績 増減率
■ 売上高	13,260	12,542 5.7%
■ 売上総利益	3,683	3,366 9.4%
■ 販管費	2,073	1,942 6.7%
■ 営業利益	1,610	1,424 13.1%
■ 営業外損益	60	73 <b>△17.8%</b>
■ 経常利益	1,670	1,497 11.6%
■ 当期純利益	1,170	1,169 0.1%

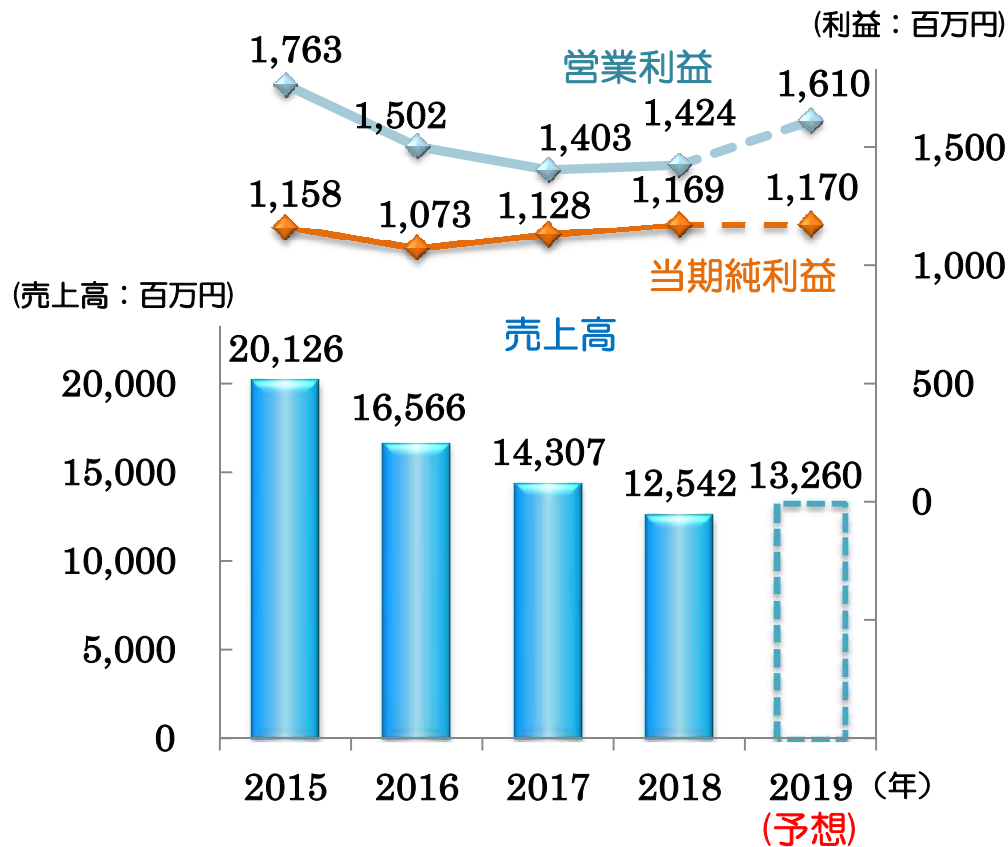
※想定為替レート：1USドル=108円





# 全社見通し

## 業績の推移（実績・予想）



### 【増収・増益 予想】

- ・売上高 前期比 5.7%
- ・営業利益 前期比 13.1%

中期経営計画の基本方針に基づき、更なる収益力の向上を目指した取組を継続的に実施

- SSPは、産業用検知器、基幹産業用の防火設備の市場開拓を推進
- サーマルは、半導体製造装置用のセンサー、熱板を中心に拡販を推進
- ディカルは、生産効率改善、原価低減により収益改善、売上拡大を目指す
- PWBAは、原価低減による価格競争力の強化を図り、未参入事業への開拓を推進

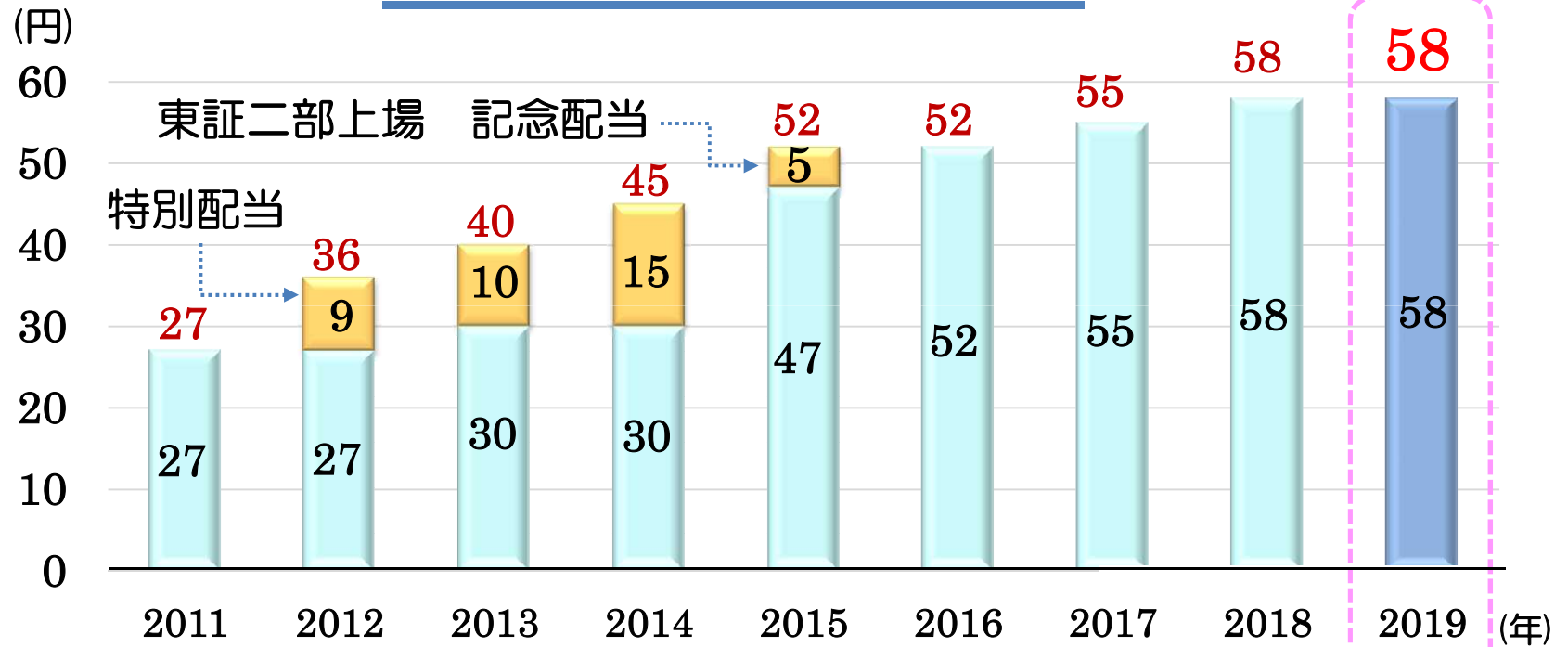
## 2019年度 配当について

FENWAL



# 配当金の推移

## 1株当たりの配当金推移



当期純利益 (百万円)	256	779	874	1,009	1,158	1,073	1,073	1,169	1,170
配当性向(%)	62.1	27.2	26.9	26.2	26.4	28.5	28.5	29.2	29.2

## 4. 中期経営計画（ローリングプラン）



## 「2017-2019年度」中期経営計画 基本方針

### 持続的成長の実現

#### SSP

- オンリーワン製品の市場浸透
- 原子力発電所向けビジネスの拡充
- 差別化できるガス消火システム開発
- 安定収益が見込めるメンテナンス営業の更なる強化

#### メディカル

- 主要顧客からの顧客満足度向上による売上アップと収益拡大
- 第一種医療機器製造販売業許可を生かして新製品受託開発案件量と販売実績を積み上げる

#### 研究開発

- オンリーワン製品を生み出す発想力を高める
- 開発技術の向上
- 開発速度の向上と開発納期の遵守

#### サーマル

- 半導体業界におけるシェア拡大
- オンリーワン製品を開発する

#### PWBA

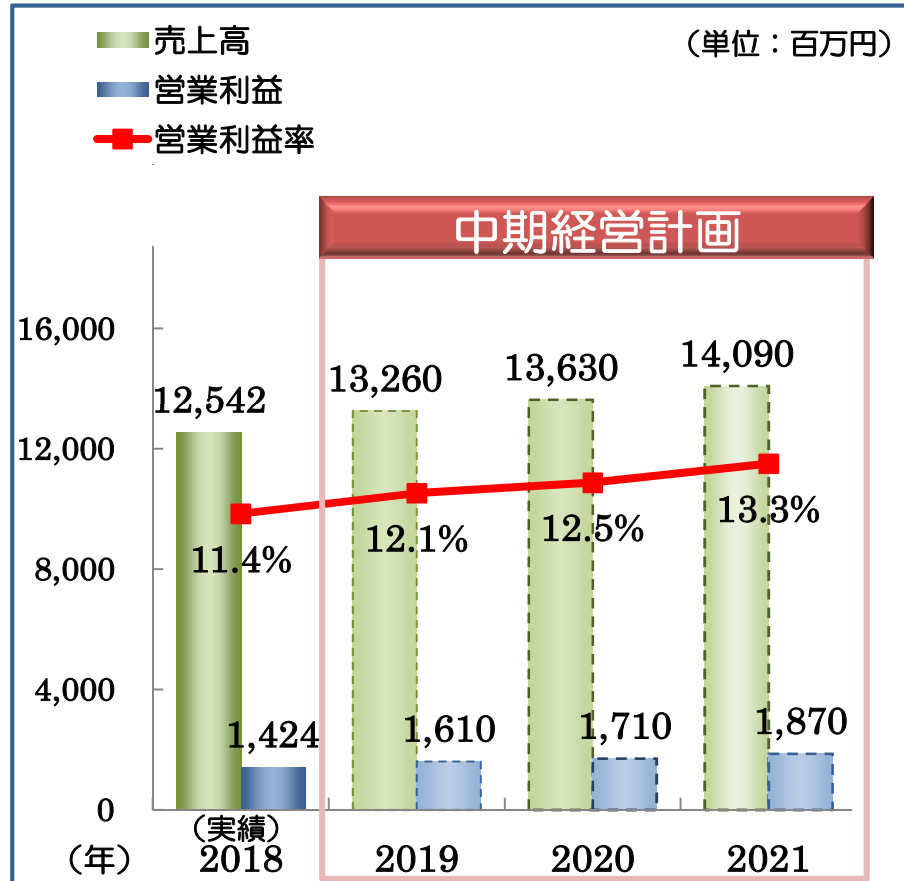
- 売上高急減に対応した生産体制の再構築
- 生産コストの低減により新規顧客からの受注を増やす

#### 工場

- 現在の低生産性状態からの脱却
- 人員体制を見直し作業効率の改善による効率性向上



## 中期経営計画（ローリングプラン）



### 数値目標

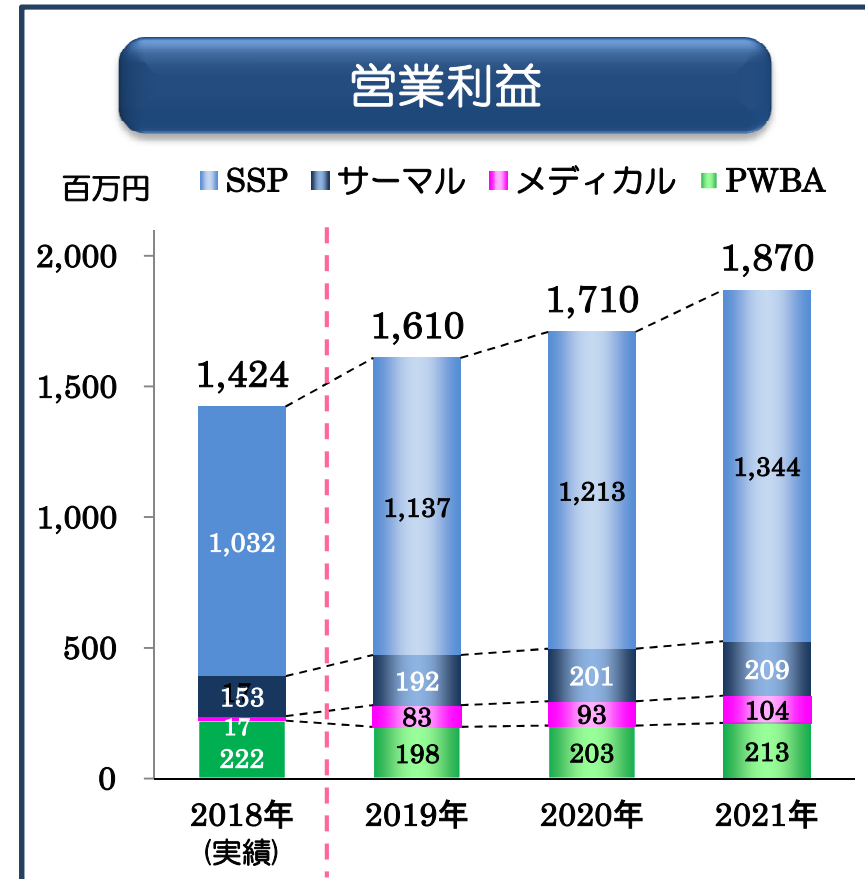
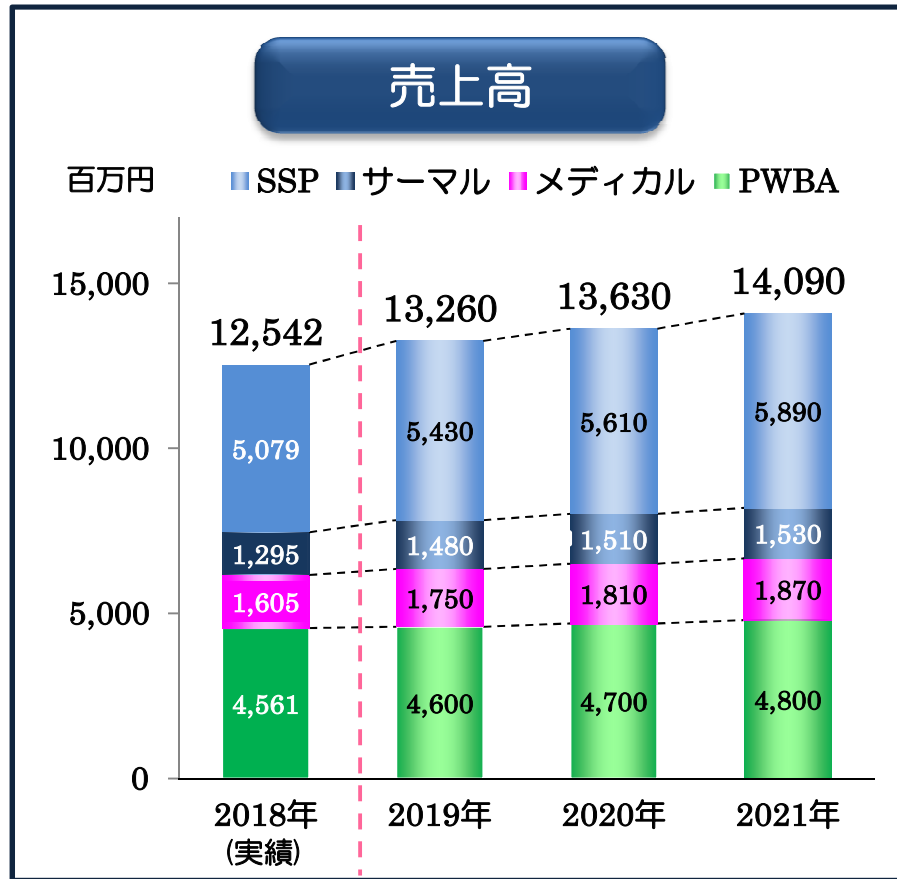
（単位：百万円）

	2018年 (実績)	2021年
売上高	12,542	14,090
営業利益	1,424	1,870
営業利益率	11.4%	13.3%

- ・ オンリーワン製品の拡販、差別化された新製品の開発を継続し、更なる収益力の向上、改善を目指す
- ・ 持続的な成長を実現するための、本社機構、営業、開発、生産の体制を見直し、人員の適正化を推進
- ・ 企業価値向上に向けた、ガバナンス体制、取組の強化








## 中期経営計画（ローリングプラン）





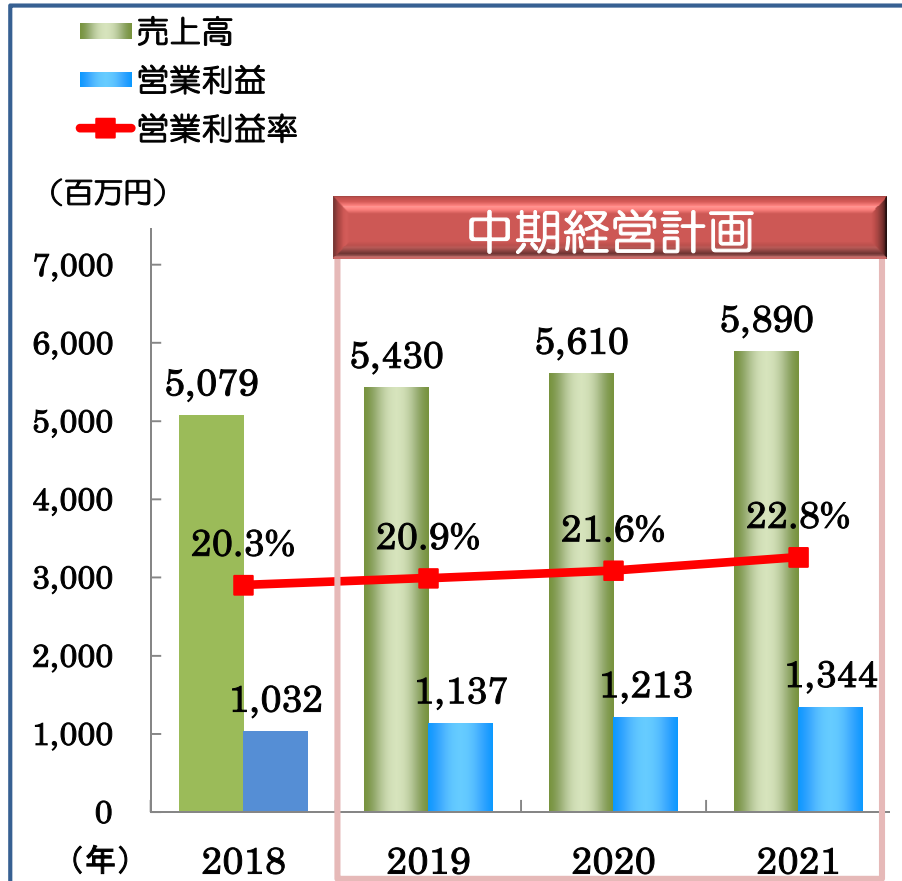
## 新製品の開発状況

品名	特徴	進捗状況および予定	外観	発売日
船舶向防爆型 煙感知器	船舶にも防爆性能を求められる場所があり、 耐圧防爆型では世界初となる。	日本海事協会規格を取得の ため試験方案作成中。		2019年 9月予定
防爆型3種 煙感知器	防爆性能を求められる場所でシャッター、 防火扉等の連動用感知器は3種の煙感知器が 必要となる。	3種を取得。 工場への生産引継ぎ中。		2019年 4月予定
Fシリーズ 受託評価取得	Fシリーズは性能、形状等が消防法の範疇に 納まらない為、現在は未検定品です。 Fシリーズ用に新たな基準を検討、評価し、国 のお墨付きをもらう。	新しい試験方法による、 評価データを収集中。 評価後 試験方法を策定し、 検定協会へ申請予定。		2019年 12月予定
防爆型煙感知器 海外展開	防爆型煙感知器でFMの他にATEXやIECEXの 規格を取得し、米国・欧州・アジアを中心と した海外への販売を可能とする。	本審査に向けて防爆専用の 品質管理システムを構築中。		2019年 6月予定
抜針センサー	ノイズに強く、誤動作の恐れがないシンプルな 機構のセンサーで透析装置と連動し、抜針事故 を防ぐ。	医療関係者の意見を取り 入れ、現在 改良中。		2019年 5月予定
品名	コンソ シアム	コンソーシアムの動き	当社の動き	発売日
IoT	FIELD System	<ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー開催が定期的に行われている。</li> <li>会員フォーラムが公開され、技術情報の交換の場ができた。</li> <li>ストアの製品はアプリケーションソフトが主。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無線LAN接続型 煙検知器の評価を継続中。</li> <li>有線LAN接続型 IoT煙検知器の開発に着手。</li> </ul>	2019年 予定
	EDGE CROSS	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI/IoT展出展をはじめ活用セミナーの開催など知名度向上のための活動を行っている。</li> <li>基本ソフトの出荷が1,000本を超えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応用のため基本技術の習得を行い、製品への導入を目指す。</li> </ul>	2019年 予定





# SSP事業



## 重点施策

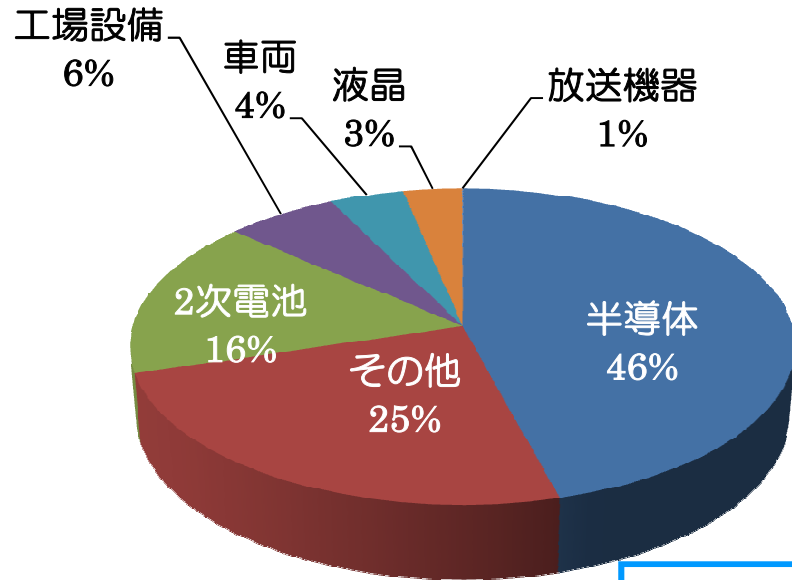
### 産業分野に於ける 特殊防災のリーダーを目指す

- ・ 産業用検知器(Fシリーズ、防爆型煙感知器)のラインナップを増やし、海外を含めた市場の開拓を積極的に推進
- ・ 電力等の基幹産業向けガス消火設備および火災報知設備の継続受注を目指す
- ・ 安定して売上の見込めるメンテナンスおよび既存案件の改修工事営業を推進
- ・ 消火設備の受注拡大の為に、施工体制の強化とシステム販売の検討を推進



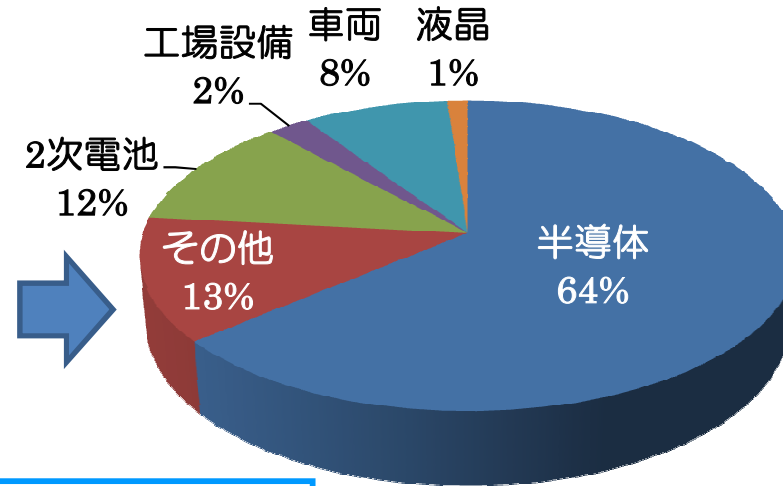
## Fシリーズ（産業用検知器）の納入実績

2017年 納入業界



売上 315百万円

2018年 納入業界



売上 323百万円

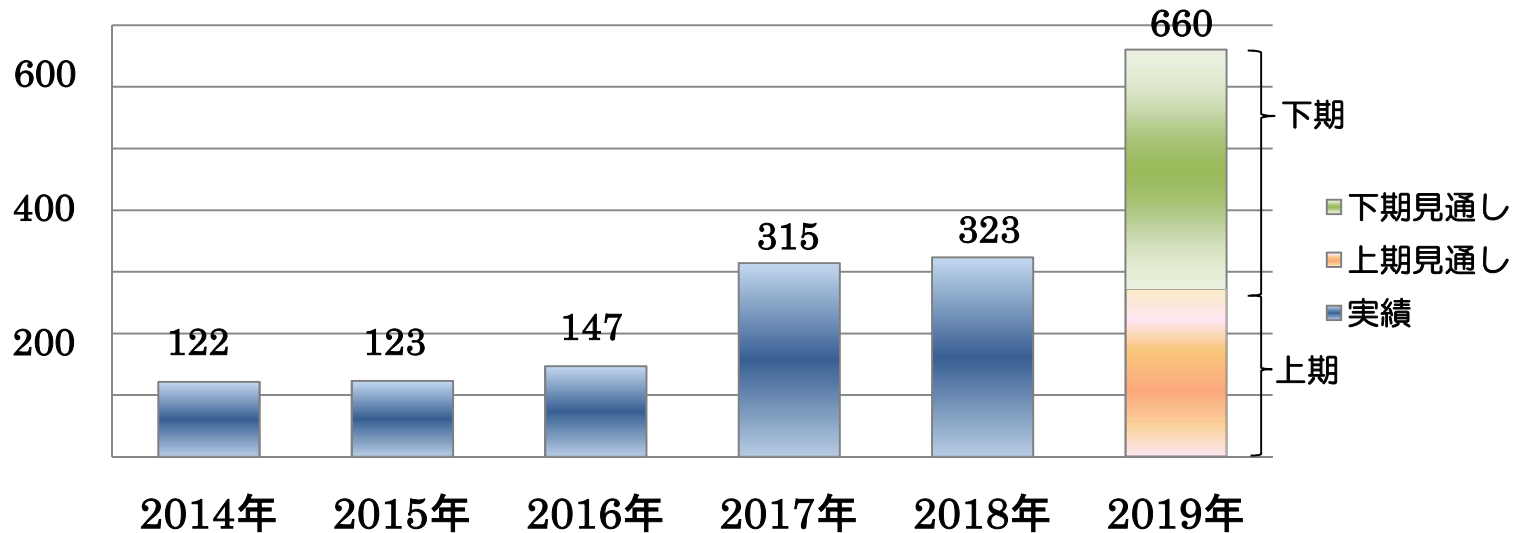
- 販売が増加した先
- ・半導体製造装置メーカー向け
  - ・海外車両向け
- 販売が減少した先
- ・工場設備向け
  - ・液晶製造装置メーカー向け
  - ・リチウム電池製造メーカー向け



## Fシリーズ（産業用検知器）の売上実績

(単位:百万円)

Fシリーズ売上高推移  
(2019年1月末時点予測)



【2019年度売上目標】 660百万円

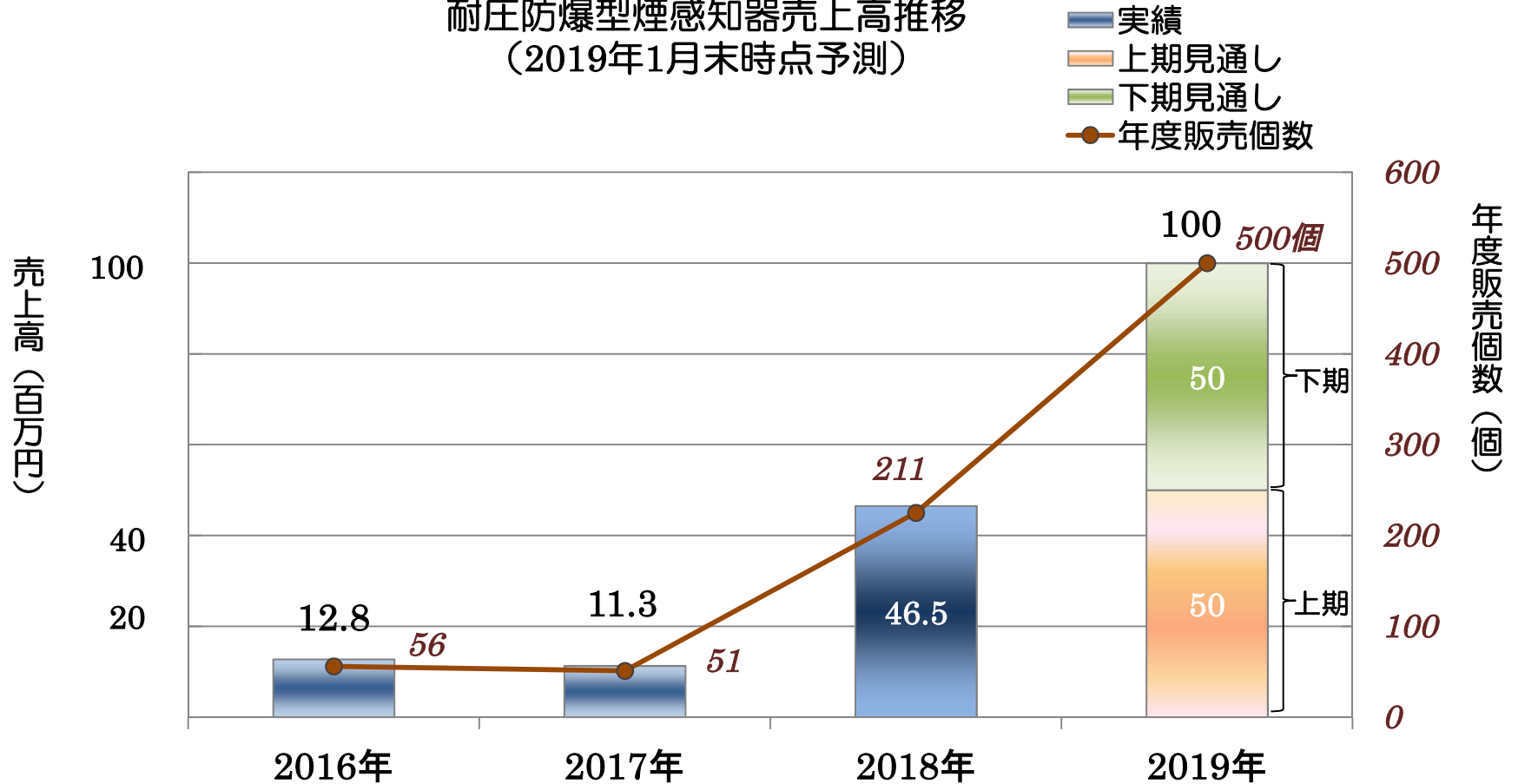
(重点販売先)

- ① 半導体市場向け
- ② 電力基幹設備向け（原子力施設含む）  
※工期延期案件についても継続受注
- ③ 海外市場向け（台湾、中国、東南アジア）
- ④ 工場向け（保全対策、防災対応、IoT化）  
※鉄鋼、化学、電池メーカー工場設備
- ⑤ 車両、搬送機、工作機器向け



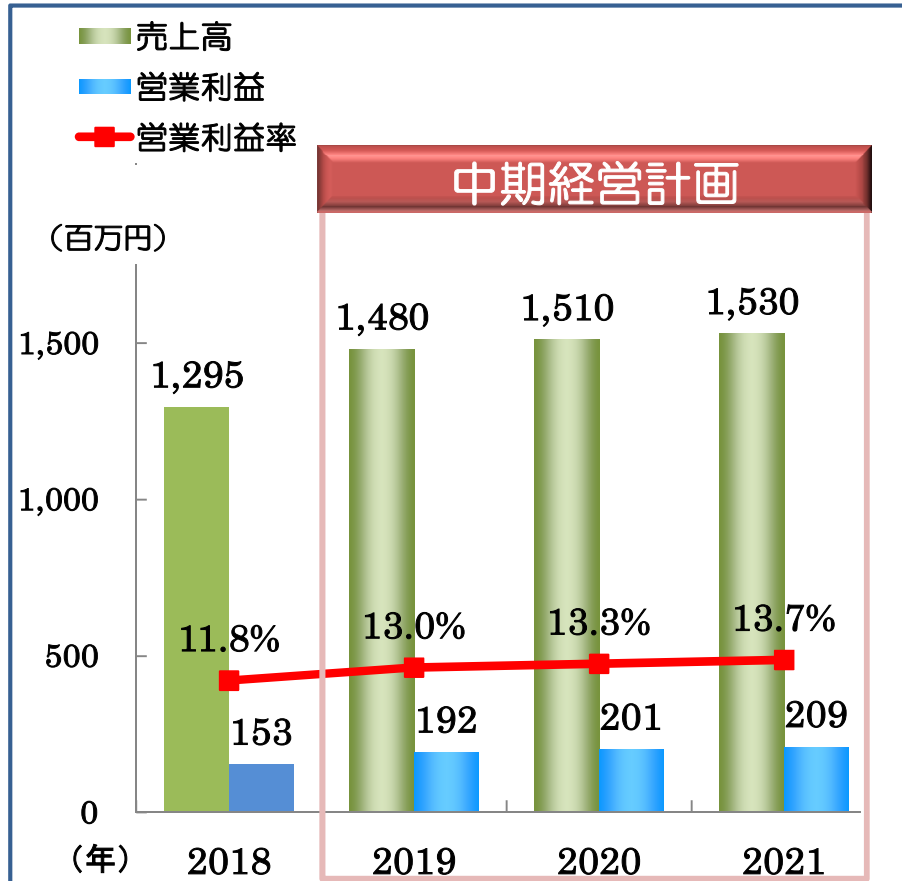
## 耐圧防爆型煙感知器の売上実績

耐圧防爆型煙感知器売上高推移  
(2019年1月末時点予測)





# サーマル事業



## 重点施策

半導体市場に向け、引き続き 熱板、熱センサー（熱電対）のシェア拡大、新製品の開発を継続

- ・ 装置メーカー、エンドユーザーのニーズを捉えた新製品の対応、開発によるシェアアップを図る
- ・ 当社技術の応用、JCSS認定(計量法トレーサビリティ制度)等を活用した新たな市場への拡販
- ・ オンリーワン製品を開発するための技術力、営業力の強化を継続



# メディカル事業



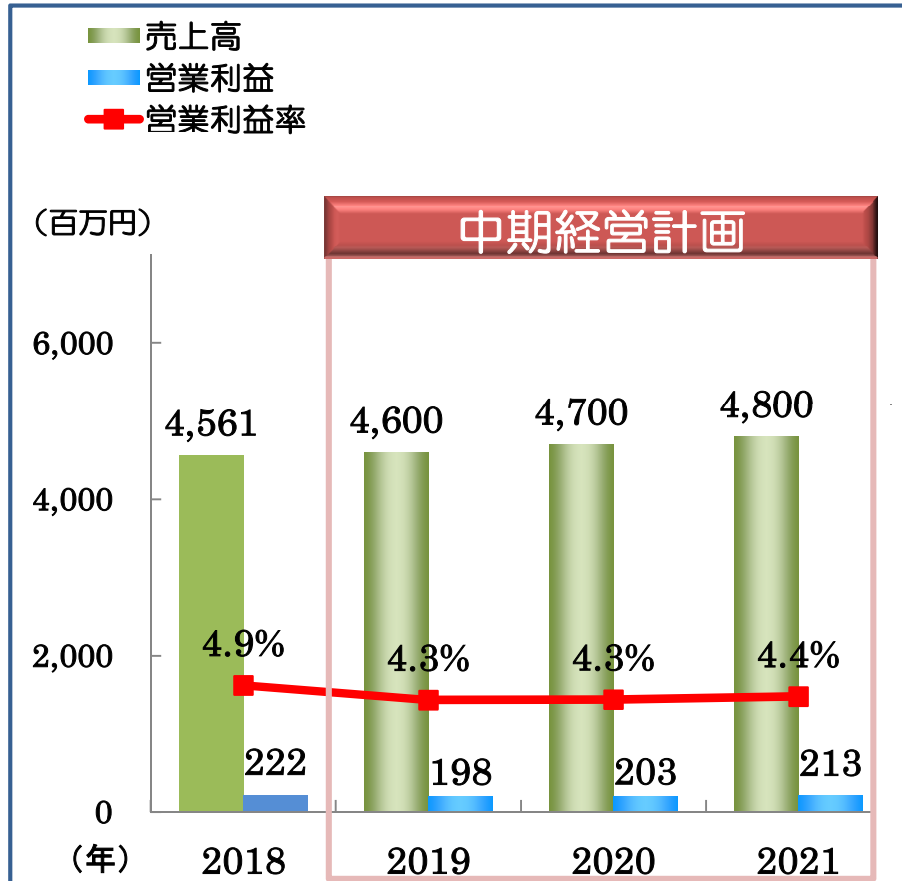
## 重点施策

コストダウンによる採算性向上と高採算の新規開発によりV字回復を目指す

- **透析装置の生産効率改善と原価低減**  
新製品の購入数量の見直し、工程の最適化を推進し、原価低減を図る
- **透析装置の要素部品の原価低減**  
昨年に引き続き原価の低減を目指す  
将来のために要素部品の開発に取り組む
- **医療機器新規開発**  
透析装置、その他の新規装置含め開発を取り込み、将来の売上拡大を目指す
- **その他（透析以外）医療機器の販売拡大**  
既存取引先の横展開で取引を拡大



# PWBA事業



## 重点施策

既存取引先の取引拡大を推進し、海外(中国)の新規顧客への営業活動と原価改善活動によるコスト競争力強化と利益率向上を狙う

### 【国内】

- ・ 既存取引先の取引拡大を引き続き推進
- ・ 長野工場、海外工場、協力会社の総合力での加工費見積り価格低減による価格競争力の強化

### 【海外】

- ・ 部材購入価格低減のためのベンチマーク価格調査の実施
- ・ 上記価格に近づける為の購入ルート、購入方法の見直しの実施
- ・ 生産委託先と協業による生産性向上活動による加工費価格低減
- ・ 海外(中国)での新規顧客開拓の実施

## 中期 経営目標・投資計画・配当政策





## 投資計画

### 2019年度の投資計画

研究開発	・ SSP	： IoT関連技術	200百万円
	・ サーマル	： 熱センシング技術	80百万円
	・ メディカル	： 医療機器開発関連技術	110百万円
設備・建物	・ 工場建物	： 老朽化による建替・補修	50百万円
	・ 研究施設	： 老朽化による建替・補修	50百万円
	・ 生産設備	： 新規入替・補修	160百万円
	・ 社内インフラ	： ネットワーク構築、セキュリティ強化	50百万円
人材育成	・ 新卒採用	： 定期採用(若干名/年)実施	20百万円
	・ 中途採用	： 人員構成の正常化(30代)	50百万円
	・ 教育訓練	： 幹部育成・階層研修	10百万円



## 中期 経営目標・配当政策

### 経営目標

- ・利益拡大に全力を傾注し、収益力の強化を図り、ROEの向上に努める

**ROE目標値 12%以上**  
(2018年度 10.1%)

### 配当政策

- ・株主配当については、安定的な配当の継続を基本としつつ、収益状況を勘案して配当を行う

**連結配当性向目標値 35%**  
(2018年度 29.2%)

## ■ 注意事項

本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、特に見通し情報等につきましては、市場環境、為替レート等々様々なリスクや不確実性を内包しておりますので、当社の予測とは異なる可能性があります。